

【特色のある授業】「いのちと健康」

11月22日（火）・24日（木）・25日（金）川崎田園都市病院の看護副部長 柘田三枝子さんをお招きし、テーマ「大切なもの」についてお話をさせていただきました。

この事前学習として、生徒は「16歳の私が癌になったと仮定した死の疑似体験」をとおして意見交換を行っています。生徒たちは考えられる範囲で「今できること」「今やって欲しいこと」「今、伝えたいこと」「今、後悔していること」などについて話し合いました。

当日の講演会では、柘田三枝子さんから「癌は若年者ほど進行が早いこと」「何でもない行動ができなくなること」「亡くなった後の家族の虚脱感」「生活の変化」など現場の様子について講演されました。

生徒たちはこの話を真剣に聞き、現場の様子を想像し理解を深め「いのち」についてあらためて深く考えていたようです。

「二度と戻らない会話」「二度と戻らない日常生活」「誰にでも平等に訪れる死」このことを生徒たちは深く心に刻んだ授業となりました。

